

令和8年度

大俣小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒エージェンシーを発揮できる児童の育成
- 生徒エージェンシーを発揮させる授業の実践

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の練習には真面目に取り組む児童が多い。 ●読み違いや思い込みがあったり、言葉の意味を理解せず使ったりしている。 ●教師や友達の話を最後までしっかり聞くことができていない児童がいる。	・読み違いや思い込み等をせずに情報を正確に読む力を身に付けている。 ・傾聴する態度を身に付け、獲得した情報から、目的や意図に応じて必要な情報を取り出す力を身に付けている。	・小テストを継続的に実施するなどして、理解度を把握しながら定着を図る。 ・教師が良いモデルになったり、手引きを提示したりして、話す力、聞く力、読む力、書く力を育成する。 ・SWPBSマトリックスを活用したポジティブ行動支援で、傾聴する態度を育成する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり話したりすることに意欲的な児童が増えてきた。 ●自信のなさから自分の意見を全体の中で発表することができない児童もいる。 ●他の児童の意見と自分の意見を比較・関連付けることが難しい。	・目的や意図に応じて、表現方法を選び発信する力を身に付けている。 ・問題を解決するために適切かどうか見直す力を身に付けている。 ・比較・関連付けて理解し、共感的な視点から捉える力を身に付けている。	・自らの考えを明確にし、筋道を立てて発信する活動の場を、意図的に設定する。 ・安心して自らの考えが言える雰囲気づくりに努め、協働的な学びができるようにする。 ・ＩＣＴ機器を効果的に活用する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師から出された課題は、一生懸命に取り組むことができる。 ●自ら課題を見付け、主体的に課題に取り組むことができていない。	・自ら課題に気付き、考え、行動したり表現したりすることができる。	・「ふたばdeシート」をもとに、自らの課題に気付き、主体的に課題に取り組むことができるように、指導・助言を行う。 ・児童が自らの成長を実感し、学習意欲を高めるために結果だけでなく、努力や工夫といった過程を具体的に褒める。			